

社外取締役の属性と企業パフォーマンス

辻本 臣哉（ニッポンライフ・グローバル・
インベスターズ・シンガポール）

社外取締役の採用は、過去 10 年で、徐々にではあるが日本企業に浸透してきている。特に、昨今では、これまで社外取締役がいなかった大手有力企業が、社外取締役の導入を発表し、社外取締役が、日本企業において特殊なものではなくなっている。

社外取締役が、企業パフォーマンスに影響を与えるかについては、多くの先行研究が検証を行ってきたが、本研究では、社外取締役の属性に注目した。銀行に職務経験のある社外取締役、支配会社に職務経験のある社外取締役、相互派遣を行っている会社の社外取締役について検証を行った。

サンプルは、金融を除く全上場企業、期間は 2005 年から 2011 年である。企業パフォーマンス指標としてトービンの Q を用いた。収益性、企業規模、財務リスク、業種をコントロールした重回帰分析を行った。検証の結果、社外取締役が、企業パフォーマンスに正の影響を与えていることが発見された。しかし、その属性に注目した場合、銀行に職務経験のある社外取締役、支配会社に職務経験のある社外取締役、相互派遣を行っている会社の社外取締役においては、企業パフォーマンスとの関係は見いだされなかった。

本研究では、サンプルの区分として、上記 3 つの属性で行ったことから、これら以外の属性を持つ社外取締役が、企業パフォーマンスに貢献していることになる。その属性を特定できていないことが、本研究の限界である。しかしながら、社外取締役全体では、企業パフォーマンスに貢献しているのにもかかわらず、支配会社から送られた社外取締役や、相互派遣による社外取締役の効果がなかったことが検証された。これは、社外取締役の独立性の重要性について、間接的ではあるが、サポートしていると考えられる。